

むらいクリニック通信

Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic



小児の睡眠時無呼吸症候群



小児の睡眠時無呼吸症候群という病気をご存じでしょうか？

小児期は身心の成長・発達が活発な時期のため、とても大切です。成長・発達が著しい反面、障害を受けやすく成長も未発達です。この時期に発症する睡眠時無呼吸症候群や生活習慣の影響が後々小児の人格形成や健康状態に大きく影響を及ぼします。

いびきは鼻やのどの狭くなった部位を息が通る狭窄音です。原因はアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎などによる鼻閉やアデノイド増殖症や口蓋扁桃肥大などが理由となります。

起きている時は鼻がつまっても意識的に口で呼吸することが出来ますが、睡眠中は無意識に鼻で呼吸しようとするためにいびきや無呼吸が起こってしまいます。

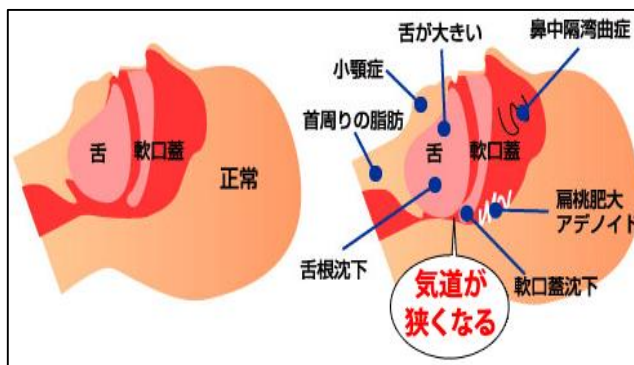
睡眠時無呼吸は、予備能が小さい乳幼児や小児にとって重篤な障害となり突然死の原因となることがあります。特に鼻呼吸が重要である小児の解剖学的特徴を理解した上で、適切に睡眠障害を診断・治療することが大切です。

小児の睡眠呼吸障害、いびきをおこす代表的な疾患としてアデノイド増殖症・口蓋扁桃肥大があります。アデノイド（咽頭扁桃）は3～6歳、口蓋扁桃は5～7歳で最大となり学童期後半に次第に退縮します。肥大の程度、退縮の経過は個人差があり、成人期まで肥大が持続することもあります。好発年齢は2～6歳頃で成長・発達の時期に関係していると言えます。

症状としてはいびき、喉の渇き、倦怠感、頭痛、就寝・起床時間の遅れ、寝起きの悪さ、長時間の昼寝、夜間の体動、覚醒、集中力の欠如、学力低下などが起こったりします。また、睡眠リズムが崩れ昼と夜が逆転してしまい不登校を引き起こし、落ち着きがない、多動、人格変化（攻撃的、内向的になる）など異常行動を引き起こしてしまう場合があります。睡眠中に分泌される成長ホルモン分泌障害に伴う低身長、肥満、抗利尿ホルモン分泌障害による夜尿など小児の成長発達に大きな影響を及ぼします。

あなたのお子さん、お孫さんの睡眠状況をよく確認してください！

このような症状がいくつか思いあたるようならば一度、耳鼻科咽喉科や睡眠障害の専門医での相談・検査をおすすめします。検査は当院でも可能です。睡眠時呼吸障害の正確な診断には、睡眠脳波、眼球運動、心電図、鼻+口の気流量、胸腹運動等記録する終夜睡眠検査が必要です。小児では胸壁が柔らかいので上気道狭窄による換気障害は陥没呼吸して観察されます。呼吸障害のひどい時期に前胸壁をはだけた状態で5～10分間ビデオ記録をしてもらくと、耳鼻科医の理解を得るのも有用です。



<http://nsleep.com/hp/intemal/in-child/in-child.htm>より引用

●クリニックよりお願い●

PSGを予約された方は、原則当日キャンセルをお断りしております。キャンセル希望の場合には1週間以上前に連絡してください。CPAP使用の患者さんは使用状況に関係なく、**月1回の受診**が必要です。受診予約のない方は受診予定の確認のため当院もしくは機器メーカーより連絡する場合がありますのでご了承ください。

耳鼻咽喉科・アレルギー科
いびき・無呼吸検査治療室



むらいクリニック

〒503-0836
岐阜県大垣市大井2-44-2
Tel 0584-77-3838 Fax 0584-77-3839
予約専用Tel 0584-47-9898
<http://www.murai-clinic.jp>

むらいクリニック通信

Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic Murai Clinic



小児の睡眠時無呼吸症候群



小児の睡眠時無呼吸症候群という病気をご存じでしょうか？

小児期は身心の成長・発達が活発な時期のため、とても大切です。成長・発達が著しい反面、障害を受けやすく成長も未発達です。この時期に発症する睡眠時無呼吸症候群や生活習慣の影響が後々小児の人格形成や健康状態に大きく影響を及ぼします。

いびきは鼻やのどの狭くなった部位を息が通る狭窄音です。原因はアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎などによる鼻閉やアデノイド増殖症や口蓋扁桃肥大などが理由となります。

起きている時は鼻がつまっても意識的に口で呼吸することが出来ますが、睡眠中は無意識に鼻で呼吸しようとするためにいびきや無呼吸が起こってしまいます。

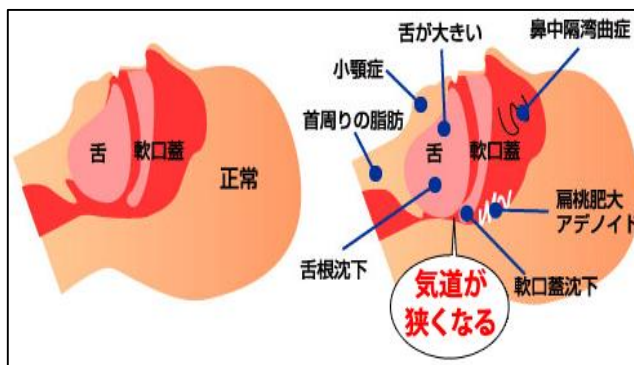
睡眠時無呼吸は、予備能が小さい乳幼児や小児にとって重篤な障害となり突然死の原因となることがあります。特に鼻呼吸が重要である小児の解剖学的特徴を理解した上で、適切に睡眠障害を診断・治療することが大切です。

小児の睡眠呼吸障害、いびきをおこす代表的な疾患としてアデノイド増殖症・口蓋扁桃肥大があります。アデノイド（咽頭扁桃）は3～6歳、口蓋扁桃は5～7歳で最大となり学童期後半に次第に退縮します。肥大の程度、退縮の経過は個人差があり、成人期まで肥大が持続することもあります。好発年齢は2～6歳頃で成長・発達の時期に関係していると言えます。

症状としてはいびき、喉の渇き、倦怠感、頭痛、就寝・起床時間の遅れ、寝起きの悪さ、長時間の昼寝、夜間の体動、覚醒、集中力の欠如、学力低下などが起こったりします。また、睡眠リズムが崩れ昼と夜が逆転してしまい不登校を引き起こし、落ち着きがない、多動、人格変化（攻撃的、内向的になる）など異常行動を引き起こしてしまう場合があります。睡眠中に分泌される成長ホルモン分泌障害に伴う低身長、肥満、抗利尿ホルモン分泌障害による夜尿など小児の成長発達に大きな影響を及ぼします。

あなたのお子さん、お孫さんの睡眠状況をよく確認してください！

このような症状がいくつか思いあたるようならば一度、耳鼻科咽喉科や睡眠障害の専門医での相談・検査をおすすめします。検査は当院でも可能です。睡眠時呼吸障害の正確な診断には、睡眠脳波、眼球運動、心電図、鼻+口の気流量、胸腹運動等記録する終夜睡眠検査が必要です。小児では胸壁が柔らかいので上気道狭窄による換気障害は陥没呼吸して観察されます。呼吸障害のひどい時期に前胸壁をはだけた状態で5～10分間ビデオ記録をしてもらくと、耳鼻科医の理解を得るのも有用です。



<http://nsleep.com/hp/intemal/in-child/in-child.htm>より引用

●クリニックよりお願い●

PSGを予約された方は、原則当日キャンセルをお断りしております。キャンセル希望の場合には1週間以上前に連絡してください。CPAP使用の患者さんは使用状況に関係なく、**月1回の受診**が必要です。受診予約のない方は受診予定の確認のため当院もしくは機器メーカーより連絡する場合がありますのでご了承ください。

耳鼻咽喉科・アレルギー科
いびき・無呼吸検査治療室

むらいクリニック

〒503-0836
岐阜県大垣市大井2-44-2
Tel 0584-77-3838 Fax 0584-77-3839
予約専用Tel 0584-47-9898
<http://www.murai-clinic.jp>

